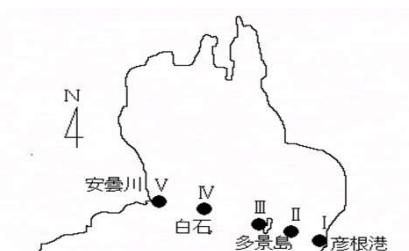


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年4月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年4月13日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

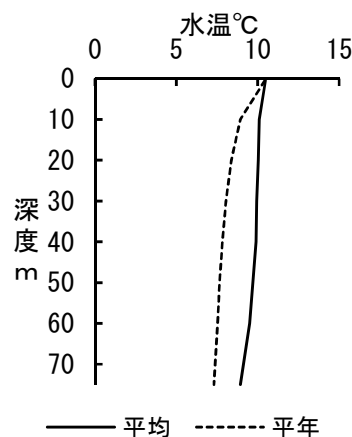
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 4月平均値 5.4m 平年値 5.2m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	10.5	10.4	+0.1
10	10.1	8.9	+1.2
20	10.0	8.4	+1.6
30	9.9	8.1	+1.8
40	9.9	7.8	+2.1
50	9.7	7.7	+2.0
60	9.5	7.5	+2.0
75	8.9	7.3	+1.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
3月下旬	10.7	8.9	+1.8
4月上旬	11.3	9.9	+1.4
4月中旬	11.9	11.2	+0.7

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	5.8	9.2	-3.4
10~20	4.3	2.5	+1.8
20~40	2.5	1.2	+1.3
40~75	1.1	0.6	+0.5

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

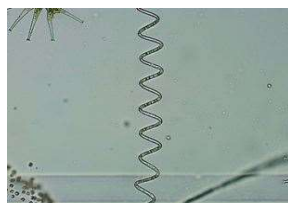
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Micrasterias hardyi*(ミクラステリアス:緑藻)が量的に最も多く確認されたほか、細胞数では地点1,4,5において*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が、地点2において*Aulacoseira ambigua*(アウラコセイラ:珪藻)が、地点3において*Uroglena americana*(ウログレナ:黄色鞭毛藻)がそれぞれ最も多く確認された。

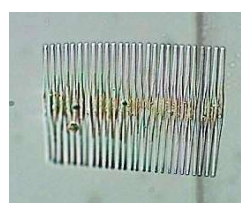
動物プランクトンについては、地点1,2,3において*Synchaeta sp.*(ドロワムシ:ワムシ類)が、地点3,4において*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が最も多く確認された。



Micrasterias hardyi



Aulacoseira ambigua



Fragilaria crotonensis



Uroglena americana



Synchaeta sp.



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

深度 (m)	4月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.35	(104.9)	11.68	(107.6)	-0.33	(-2.7)
10	11.38	(104.5)	11.68	(104.8)	-0.30	(-0.3)
20	11.28	(103.1)	11.43	(101.3)	-0.15	(+1.8)
30	11.09	(101.2)	11.29	(99.1)	-0.20	(+2.1)
75	9.12	(79.7)	10.12	(86.9)	-1.00	(-7.2)